

# 「肉牛の飼育過程（黒毛和種の場合）」の解説



## 繁殖部門と肥育部門

肉牛を飼っている農家は、牛の飼い方で区分されます。

また、飼っている牛の種類によって、区分されることもあります。

ここでは、牛の飼い方に注目して、農家でどんなふうに牛が飼われているか、見てみましょう。

肉牛の飼い方は、「繁殖」と「肥育」に区別されます。

繁殖だけを行う農家を繁殖農家（または、繁殖経営）、肥育だけを行う農家を肥育農家（または、肥育経営）と言います。

この両方を行う農家を、繁殖肥育一貫農家（または、繁殖肥育一貫経営）と言います。

三重県では、繁殖部門だけを行う農家はほとんどなく、肥育経営が多くなっています。



## 繁殖牛

母牛から生まれて、繁殖用として飼育されているメス牛は、生後 14 ヶ月ほどで、初回の発情が現れます。

牛の妊娠期間は、約 280 日です。

母牛は、子牛を産んだ後、子牛を育てながら、次の分娩のために分娩後概ね 80 日前後で種付けをします。

繁殖経営では、効率よく子牛が生まれないと経営が成り立ちません。分娩後種付けまでの 80 日間と 280 日間の妊娠期間を足すと 360 日になります。繁殖農家は 1 頭の母牛が 1 年間に 1 産できることを目標にして、経営を続けています。

このように母牛は、種付け⇒分娩⇒種付け⇒分娩・・・を、繰り返します。繁殖牛には一生のうちに、少なくとも数回以上分娩できることが求められます。

牛の中には、病気になって順調に分娩ができなかったり、お産に失敗したりして死亡したりする牛もいますが、このような牛は、農家にとっては、損失につながります。

母牛の中には、生涯のうちに 10 産以上も分娩するような牛もいます。



## 子牛

生まれた子牛には、たくさんの初乳を与えます。生まれて 1 週間程度の子牛は 1 日に 7kg 程度のお乳を飲みます。初乳はいろいろな病気に対する免疫物質を含んでいるので、大変大切なものです。30 日齢頃まで母牛の乳と代用乳等の栄養を与えます。20 日齢を過ぎる頃になると、母牛のエサに興味を示してきます。この頃から、スターターと呼ばれる子牛用のエサを与え始めます。濃厚飼料（穀類の飼料）も与えられますが、その後の発育のためには、丈夫な「胃」が必要なことから、粗飼料（牧草などの飼料）も給与されます。

飼育方法にもよりますが、生後 5 ヶ月から 6 ヶ月間は、母牛といっしょに飼育されます。

子牛がメスの場合は、次の母牛になるために、農家にそのまま残されて飼育されることもありますが、ほとんどの子牛はおよそ10ヶ月齢から12ヶ月齢になる頃に、肥育農家に向けて販売されます。実際には、その農家の近くの市場に出荷されます。

さて、子牛はどれくらいのスピードで大きくなるのでしょうか。

黒毛和種（和牛）を例に取ってみましょう。

生まれたての子牛の体重は約30kgです。子牛市場に出荷される生後9ヶ月齢から12ヶ月齢の体重は、メスとオスで差がありますが、280kgから300kgになります。計算をしてみると、子牛の体重はこの時期、平均で毎日0.7kgから0.8kg程度増えていることになります。もっと発育スピードの速いものもいます。（子牛の出荷月齢は、10ヶ月齢未満の場合が多くなってきています。）



## 肥育経営

肥育農家の仕事は、子牛を市場で購入し、大きく肥らせて肉牛として出荷することです。

遠くの地方で購入した子牛は、輸送の疲れもあって肥育農家に着いたときには、10kg以上もやせてしまっています。

肥育農家では、この体重を元に戻すことから始めます。

飼育をどれくらいの期間するのか、どんな肉を生産したいのか等で、いろいろな飼い方があるので一概には言えませんが、肥育経営では、牛を概ね20ヶ月間肥育します。

この間に給与する飼料を基準にして肥育期間を区分すると、前期の7ヶ月、中期の7ヶ月、残りの6ヶ月（仕上期または後期）という具合に分けられます。

それぞれの時期に与えられる飼料には、次のような意味があります。

前期は、子牛の内臓（特に胃）と骨格の成長に気をつける時期です。良質の粗飼料を給与します。

中期から後期にかけては、筋肉の中に脂肪をつける時期に当たります。トウモロコシや大麦などカロリーの高い濃厚飼料を給与します。飼料の配合割合は、牛の能力を生かすように飼料会社や農家が色々工夫しています。

飼料の配合割合も重要なポイントですが、牛が食欲不振にならないように畜舎の環境（温度、湿度、風とおしなど）に注意したり、ストレスを与えないように細心の注意を払いながら飼育します。

ストレスは、牛同士が角で突きあったりすることでも発生します。多くの場合、牛は数頭をひとつのグループとしてひとつのマス（牛房：ぎゅうぼう）の中で飼育されます。牛にも強い牛と弱い牛がいるので、けんかをすることがあります。角は牛にとって武器のひとつでもあるので、こういったことがないように事前に角を切ったりすることもあります。

約20ヶ月の肥育期間を過ぎると、出荷を迎えます。

生まれてから28ヶ月～30ヶ月で出荷される時の体重は、これも性別や飼育の方法で異なりますが、700kgほどになります。

肥育全期間の通算の飼料給与量を、日数で割ってみると、1日に食べる濃厚飼料の量は6kg～7kg、粗飼料の量は1.6kg程度になります。

※三重県内の肉用牛経営農家戸数等、畜産経営の統計数値は  
「三重の畜産広場」内[三重の畜産統計](#)に掲載のとおりです。

※文中の数値等は平均的なものであり、飼育方法等により異なります。